

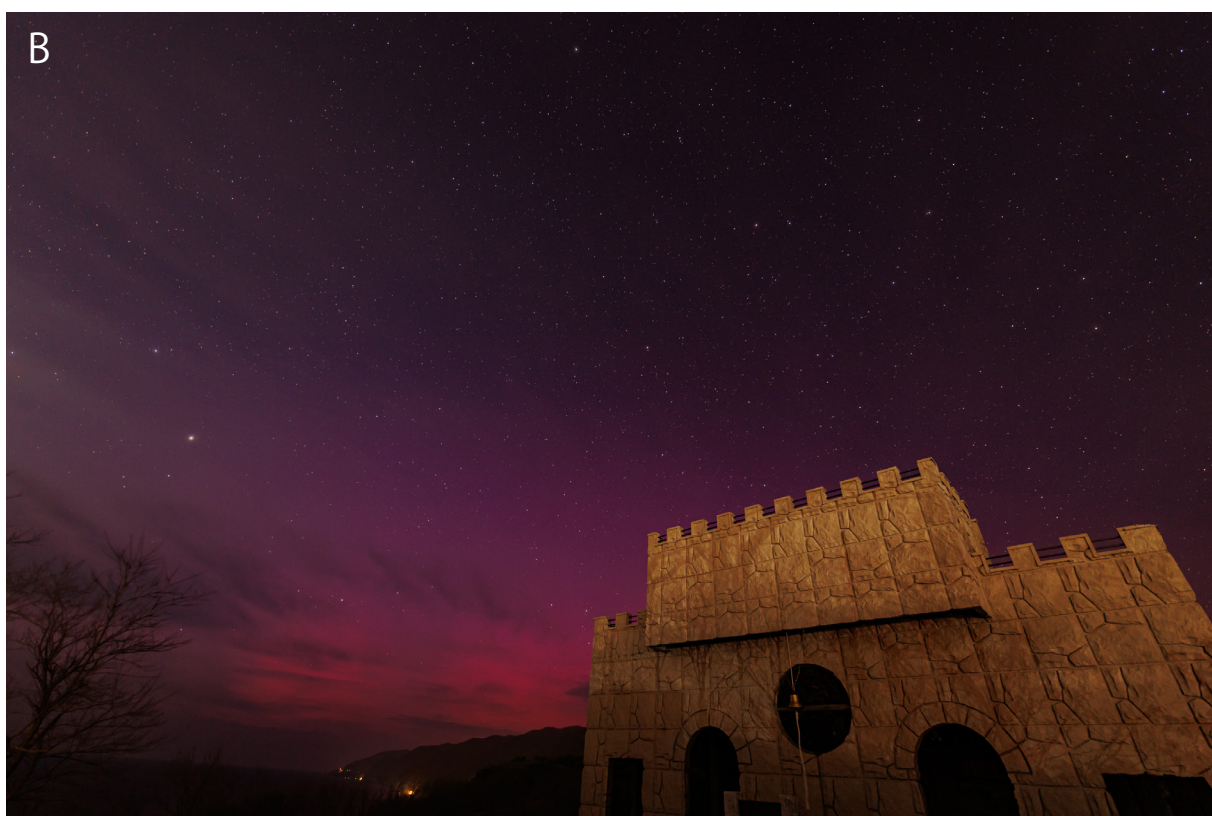
いしかり砂丘の風資料館 紀要

第 15 卷

BULLETIN OF THE ISHIKARI LOCAL MUSEUM

Volume 15

June, 2025



口絵1. 石狩市厚田で2024年5月に撮影された低緯度オーロラ。
(2024年5月11日, 吉田学さん撮影。A: 20時04分, B: 20時25分)

**口絵 1. 石狩市厚田で 2024 年5月に
撮影された低緯度オーロラ**
Low latitude aurora recorded
at Atsuta, Hokkaido, Japan
on May, 2024



オーロラは太陽から放出された荷電粒子が惑星の大気圏内に突入する際、窒素や酸素の原子と衝突して発光する現象である。通常は南北磁極を取り巻く高緯度地域で発生するが、強い太陽フレアによって磁気嵐を伴うような大規模なオーロラが発生すると、日本国内のような中緯度域や、ごく稀にさらに低緯度地域でも、高度 500km 前後のオーロラ上端の赤色光が観測されることがある。それらは「低緯度オーロラ」と呼ばれる。

2024 年 5 月 11 日、北海道石狩市厚田区厚田で、低緯度オーロラが撮影された。撮影した吉田学さんによると、肉眼ではほぼ見えなかったが、カメラのモニターを覗くと空が赤く光っていることがわかり撮影した、とのことである（志賀，2025）。

なお同日は、日本全国各地でも低緯度オーロラを目撃情報があつた。Kataoka *et al.*, (2024) によると、北海道で 59 地点、全国では 179 地点で目撃・撮影されたとされる。

石狩市内では、低緯度オーロラは過去に 2 回の観測・撮影の記録がある。1989 年 10 月 21 日の厚田区小谷（当時は厚田村）と、2017 年 9 月 8 日の厚田区聚富（当時は厚田村）である（志賀，2018）。今回の記録は、知られている限り、それらに続く 3 回目となる。

（志賀 健司）

引用文献

Kataoka, R., Reddy, S. A., Nakano, S., Pettit, J., Nakamura, Y., 2024. Extended magenta aurora as revealed by citizen science. *Scientific Reports*, 14: 25849

志賀健司, 2018. 北海道厚田で 1989 年に撮影された低緯度オーロラ. いしかり砂丘の風資料館紀要, 8 : 31-35.

志賀健司, 2025. 2024 年に石狩市厚田で観測された低緯度オーロラ. いしかり砂丘の風資料館紀要, 15 : 1-7.



口絵 2. 石狩湾で観察されたシギ・チドリ類.

- A. トウネン *Calidris ruficollis* 石狩湾新港東埠頭 2024 年 7 月 28 日.
- B. ヘラシギ *Calidris pygmaea* 石狩湾十線浜 2022 年 9 月 1 日.
- C. ヒメウズラシギ *Calidris bairdii* 石狩湾新港東埠頭 2020 年 9 月 26 日.
- D. シギ・チドリ類の群れ 石狩湾十線浜 2022 年 8 月 26 日.

口絵 2. 石狩湾で観察されたシギ・チドリ類 Shorebirds observed in Ishikari Bay



2019 年から 2024 年までの 6 年間、石狩湾新港東埠頭と十線浜の 2 ケ所で秋季に石狩湾を利用するシギ・チドリ類の調査を実施した。

最優占種はトウネン *Calidris ruficollis* で、全カウント数の 7 割以上を占めた (A)。トウネンはユーラシア大陸北部で繁殖し、東南アジアやオーストラリアで越冬するため、石狩湾周辺は中継地として春季と秋季に利用される。トウネンは成鳥と幼鳥で渡りの通過時期に差があり、石狩湾では 7 月下旬から 8 月上旬にかけて成鳥、9 月上旬に幼鳥のピークを迎える。ピーク時には数十羽から百羽程度の群れが観察され、しばしばハマシギやミユビシギなどの他種のシギ・チドリ類が混ざる (D)。

特筆すべき種類としてヘラシギ *Calidris pygmae* が挙げられる (B)。ヘラシギは IUCN が定めるレッドリストでは CR に選定されており、推定個体数が 490 羽と近い将来の絶滅が危惧されている (BirdLife International, 2021)。今回の調査では、2020 年から 2024 年までの 5 年間で計 5 個体が観察され、いずれの個体も単独の幼鳥でトウネンの群れに混ざった状態で発見された。2021 年に観察された 1 個体はロシア・チュコト半島の標識フラッグが装着されていた。

石狩湾で観察されるシギ・チドリ類の多くは東アジア・オーストラリア地域フライウェイを利用する種類であるが、本来の渡りルートを外れていると考えられる種類も記録された。アメリカ大陸が本来の生息地であるヒメウズラシギ (C) やヒメハマシギ、コモンシギ、ヨーロッパ地域が本来の生息地であるヨーロッパムナグロなどが該当する。

(内田 耕平)

引用文献

BirdLife International, 2021. *Calidris pygmae*. The IUCN Red List of Threatened Species
2021: e.T22693452A154738156. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2021-3.RLTS.T22693452A154738156.en>. Accessed on 13 March 2025.

いしかり砂丘の風資料館紀要

第 15 卷

目次

報告

- 志賀 健司：2024 年に石狩市厚田で観測された低緯度オーロラ …1
- 志賀 健司：2005 年以降の 20 年間の北海道石狩浜沿岸の海水温の変動 …9
- 荒山 千恵：いしかり砂丘の風資料館 20 周年記念体験講座「勾玉・管玉をつくる」
ー石狩市内遺跡の出土遺物をモデルにした講座マニュアルー …19
- 坂本 恵衣：石狩市内の神社分布 (2) 【厚田区】 …25
- 内田 耕平：石狩湾沿岸を通過するシギ・チドリ類 …33
- 更科 美帆, 高橋 恵美：石狩海岸における国内外来種ニホンイシガメ (*Mauremys japonica*) の
初確認 …51
- 川井 唯史, 篠原 陽：石狩湾におけるウップルイノリの分布と繁殖生態 …55

資料

- 荒山 千恵：『稲垣益穂日誌』の記録と挿絵にスケッチされた明治後半期の石狩川河口地域のサケ漁 …63

口絵

- 志賀 健司：石狩市厚田で 2024 年 5 月に撮影された低緯度オーロラ … i
- 内田 耕平：石狩湾で観察されたシギ・チドリ類 … iii

